

# 日本ボストン会 会報

第52号



プログラム委員会主催  
映画会後の懇親会にて



## 会長就任にあたって 会長: 近藤 宣之

多くの先輩会長の後を受け継いで、この度、会長に推されました、近藤です。

当会が設立された1993年以来、歴代会長は、総領事館出身者、ハーヴァード大学のOB、MITのOBが交互に就任されてきましたが、民間企業の駐在経験者からも会長にという声もあがってきました。民間企業出身者としては、NECの高木さん、前任者の清水建設の藤盛さんに続いて、日本電子（JEOL）OBの私で3代目になります。

日本ボストン会はもともとは、ボストンで学んだり生活した方、駐在経験者の同窓会的な懇親会として組織されたので、入会時に生涯会費として、5000円を支払うことで、家族も会員になって、年会費も無料です。ボストンを縁にする会は日本でもいくつかありましたが、北海道も、京都も、名古屋も財政難や事務局長の後継者難のために継続が困難になってしまったのです。それに引きかえ、当会は有志の皆さんがお得意な分野を担当してくださり、継続して会に多大な貢献をしていただいております。お陰様で幅広い活動が可能になっております。会長としても大変有難いことです。



近藤新会長

かつてハーヴァード大学のエズラ・ヴォーゲル教授が、1979年に「ジャパニアズナンバーワン」を出版して以来、私が駐在していた1980年代から90年代はじめまでは、日本の黄金時代で、駐在員や留学生の数も非常に多かったのですが、その後はボストンに住む日本人も減ってきているのではないのでしょうか。当会も、若く新しい会員が相対的に少なくなってきました。当初の会員も20年以上経ち、高齢化は避けられません。しかし諸活動への参加やイベントは活発です。

そこで新しいボストン会はどうあるべきか、もっと若い皆さんが会員になってもらうにはどうするかを、藤盛前会長の音頭でスタートした企画委員会やプログラム員会で検討してきています。こうしたフレッシュな視点での提案を受け止めながら、設立の趣旨も踏まえて、会員にさらなる経済的負担をかけないで、新たな活動を模索していきます。広い意味で日本とボストンとの友好親善の草の根活動が出来れば、とっております。

会員の皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

## 寄稿：ボストンと私（その1） 法眼健作

私は小学校6年から中学2年までアメリカで過ごした。場所はロス郊外のパサデナ市である。中学1年のある日転校生が入ってきた。先生が「この人はヘリエットという名前でハートフォード・コネティカットから来ました。」と言った。南カリフォルニアのほとんどの地名はロスアンゼルスはもとよりサンディエゴ、サンタバーバラ、ヴェンチュラ、ラカニヤダ、パサデナ、等タスペイン・メキシコ系がほとんどである。そこにハートフォード。何という美しい英国風のひびきであろうか。私にとってこの地名はずっと後まで記憶に残るものとなった。

時は経ってそれから35年が過ぎたある日、私は外務省からボストン総領事となるように命じられた。アメリカの総領事になることは外交官にとって夢の一つである。しかも名門の都市・ボストン。私は本当に嬉しかった。アメリカ勤務という意味ではその前に在ワシントンの大使館勤務はあったが、総領事というポストは40才代後半で一国一城の主（あるじ）になれるのだから格別である。そしてアメリカの歴史を誇るボストン。そしてすぐ隣にハートフォードがある。どんな所だろう。

ボストン着任後、知事さん（大統領選挙落選後のマイケル・デュカキス）、市長さん他ボストンの要人に表敬した後最初に訪問したのがもちろんハートフォードである。ニューイングランドの古い町に似合った整然とした落ち着いた所で特にステートハウス（州政府と議会の建物）は素晴らしいものであった。他にトム・ソーヤの冒険のマーク・トウェインの生家とか歴史的な場所にも案内してもらった。何と言っても嬉しかったのが13才の時から「いつかは行ってみたい」と思っていたハートフォードに行けたその事実であった。

ボストン総領事はマサチューセッツ州の他にコネティカット、ロードアイランド、ニューハンプシャー、メイン、ヴァーモントの計6州を管轄している。各々の州に出かけた際に何とも言えないアメリカ的体验をしたので書いてみたい。

ロードアイランド州。言うまでもなく名門の州である。州としてのサイズは全米一小さいが、ニューポートとプロヴィデンスはアメリカ人なら誰でも敬意を払う町である。特にニューポート

## NEXT EVENTS 奮ってご参加ください

### 伝統芸能の会

歌舞伎公演観劇（国立劇場小劇場）

日時：3月21日(木)

集合：10時15分伝統芸能情報館

3階レクチャー室

演目：①「元禄忠臣蔵」

御浜御殿綱豊卿

②「積恋雪関扉」

詳細：HP

申込・問合せ： 

『満員御礼』

### お花見の会

- 飛鳥山公園 -

日時：3月30日(土)

集合：10時 京浜東北線

王寺駅北改札口

詳細：HP

申込・問合せ： 

### 音楽の会

第14回ホームコンサート

- 大沼岳彦さんによる帰国10周年記念ピアノリサイタル -

日時：4月28日(日)

午後2時開演

場所：関幹事宅

会費：4,000円

詳細：HP

申込・問合せ： 

の高台にある全米の富豪が争うように1890年代から1910年代までに建てたCottageという名の大邸宅群は見ごとなものである。それはそれとして、ニューポートの日米協会の会合に招かれた際、一人の手配の人がやってきて「先週素晴らしい経験をしました。日本人のおかげです。」と言う。話を聞いてみると、この人は毎週末ゴルフをするのだが、その日は孫に頼まれて魚つりに出かけた。ニューポート港から船を借りて沖合で釣っていたら突然の強い引きで「黒まぐろ」がかかった。つりあげて港に帰ってきたら日本人の漁業会社の人待ちかまえていて、何と5,000ドルで買い上げてくれた。「キャッシュで5,000ドルを手にしたのは初めてである。これからは週末のゴルフは止めて孫と魚つりに行くことにした。」という話である。いかにもアメリカ的である。

メイン州。州都を訪問した際丁度メイン州の「農作物海産物フェア」が開催されていた。全米各地はもとより世界中から人々が集まるビッグイベントである。御承知のとおりメイン州はウィスコン州と並ぶアメリカ最大の農業州である。

ブルーベリー農家のブロックに行ったら一人の生産者がやってきて「去年の日本への売り上げはおととの5倍になった」と言う。私がある理由は？と聞くと「なえ木を大量に輸出したんだ。だから5倍になった」と言うので、私が「そんなことしたら日本人はそのなえ木を改良して美味しいブルーベリーを作るだろう。そうしたらあなたは困りませんか」と聞くとその人は「あのね、世界中の誰一人としてメイン州、しかも私が作るブルーベリーより美味しいものは作れないよ。アハハ」と笑って言いました。いかにもアメリカ的な話である。あれから25年余、日本は今やブルーベリーブームである。あの生産者はどうなったであろうか。

メイン州には漁業関係者の面白い話もあります。その他の州については次回。

## ニューイングランド地方と解剖学 北原秀治（きたはらしゅうじ）

大変恐縮ですが、プログラム委員として、ニューイングランドと解剖学及び病理学をかけあわせた、簡単なコラム（講義形式）を書いていければと思っております。会員の皆様におかれましては、お時間のある時にご一読いただければ幸いです。また、希望する臓器や病気の話がありましたらご連絡ください。まずは、主要臓器である消化管の入り口から順に始めたいと思います。

～消化管の入り口～

1846年、今から約170年前の10月16日。マサチューセッツ総合病院（MGH）でボストン



**MGHのエーテルドームの最上階にある講堂。現在も当時のまま保存されており、会議や講義で使われている。（写真はウィキペディアより）**

出身の若い歯科医William Thomas Green Mortonによる顎の血管腫の摘出がエーテル（麻酔薬）を用いた全身麻酔下で行われました。麻酔及び手術は、MGHの講堂（現在もそのまま残されており、閲覧可能：

[https://en.wikipedia.org/wiki/Ether\\_Dome](https://en.wikipedia.org/wiki/Ether_Dome)）で行われ、Mortonは患者を眠らせたまま手術を成功させることができました。これが世界初の全身麻酔とされています。このとき行われた手術の部位、顎ですが、顎の下には人間が生活を営む上で大切な臓器（付属腺）が存在します。皆様もご存知の「唾液腺」です。この「唾液腺」から分泌される液体を唾液と呼び、唾液に

は「ネバネバ」する「粘液」と、「サラサラ」する「漿液」（しょうえき）の2種類が存在します。粘液は食物を消化管にスムーズに通過させる役割、漿液には消化酵素が含まれています。人間には3つの大きな「唾液腺」があり、顎の下の顎下腺、舌の下にある舌下腺、そして「おたふく風邪」で有名な、耳の下にある耳下腺があります。そう、おたふく風邪の正式名称は「流行性耳下腺炎」ですね。ところで、この三つの大唾液腺からはおよそ1日1リットルの唾液が作られます。それを考えると、毎日の水分摂取は非常に大事ということになります。さて、この大唾液腺以外にも、消化管の入り口である口腔（こうくう）内には、小唾液腺というちいさな透明のビーズのようなものがびっしりと粘膜（口腔内の赤い皮膚）の下に埋まっています。その証拠に、自分の下唇の歯側を強くなぞってみましょう。ブツブツしているのがわかると思います。これが小唾液腺です。そして鏡で自分の下唇をめくってください。乾いている部分と湿っている部分の境界線があるはずですよ。つまり、唇には小唾液腺が無い部分と有る部分（無い部分に口紅やリップクリームを塗る）があることがわかります。このように、唇といっても実は複雑で不思議な組織なのです。

唾液の作用は、なんでしょうか？怪我をした部分に“唾をつけて治す“といいますが、これは正しい行為でしょうか？野生動物では正解ですが、人では間違いです。唾液腺から直接出る唾液は綺麗ですが、いったん口腔内を経由した唾液は、口腔内に住んでいる常在菌が混入しますので（もしくは食事から入る雑菌）、傷が感染する危険があるためです。話を戻して、唾液の作用というのは一体何でしょうか？たくさん有るいくつかの作用を以下に列記したいと思います。まずは消化作用、唾液内に酵素が含まれており、食物の分解を助けます。次に円滑作用。唾液が無くなると舌の動きや嚥下が出来なくなります。それから抗菌作用。これは消化管の入り口であり、口腔が最初のバリアとなるため、細菌感染から体を守る抗菌作用が含まれていますが、かなり弱い効果です。そして緩衝作用。これは口腔内の酸性度を一定に保ち、細菌の繁殖を抑えます。そして最後に自浄作用です。食べ物を洗い流したり、味を感じやすくしたりもします。直前に食べたものの味がずっと残っていると、他の味がしなくて大変ですよ。また唾液と精神状態の関わりも大きく、例えば緊張した時、リラックスした時など、唾液の性状も大きく変わってきます。口腔は消化管の入り口、身体に取り入れる最初の関所と言っても良いかもしれません。第一防衛線になるわけです。そんな最初の入り口に存在する唾液腺、みなさんも、改めて意識をしてみてください。まず鏡の前で口を開けて、舌を上にあげます。下の歯の裏側から舌の裏にある筋の付け根の少し膨らんだ所をティッシュで拭いた後、奥歯の下の顎を首側（裏側）から上に向かって押してみてください。唾液が出てくるところが見えると思います。こうやって、普段気づかない体を見ることも健康を維持する条件の一つだと思います。

## WG活動（2018年10月～2019年2月）

2018年（平成30年）

10月25日&26日

ハイキングと紅葉狩りの会

「越後湯沢 紅葉・温泉・酒の旅」

11月7日

プログラム委員会 ドキュメンタリー映画上映会

「PAPER LANTERNS・灯籠流し」

11月25日

音楽の会 ホームコンサート（第13回）

11月26日

第26回総会・懇親会

11月29日

ゴルフの会 秋季ゴルフコンペ・懇親会

11月30日

美術と歴史の会 「鎌倉の紅葉を巡る散策」

2019年（平成31年）

1月7日

ハイキング・紅葉狩りの会「柴又七福神めぐり」

1月29日

ハイキング・紅葉狩りの会  
「油壺エデンの園見学・城ヶ島水仙ロードハイキング」

## ワーキンググループ活動報告

### プログラム委員会 細田満和子

本委員会は、日本ボストン会創設から25年を経て、さらなる活動の充実を目指すために2017年に設立されました。ボストンと日本の絆をさらに深いものにし、活動の多様性を図り、そして会員の幅を広げるために約半年の準備期間を経て、遂に2018年11月7日に城西大学におきまして、ドキュメンタリー映画「PAPER LANTERNS - 灯籠流し」の上映会を開催することができました。

「PAPER LANTERNS - 灯籠流し」は、ボストン・ジャパン・ソサエティ会長を長年勤められたピーター・グリーン氏がプロデューサーを務めたドキュメンタリー映画です。内容は、40年以上の年月を費やして、広島で被爆した米兵遺族を探し、日本に招待してきた被爆者である森重昭氏を中心に、関係者の証言を綴ったものです。広島を訪問したオバマ前アメリカ大統領と森氏との抱擁のシーンも収められていました。

上映会当日は、ピーター・グリーン氏が会場にお越しになり、映画の解説をしてくださいました。また共催という立場で会場を無償提供して下さった、城西大学の島卓研究科長からは、「戦争や原爆とは何か」「平和とは何か」を問い直す良い機会になったというお言葉を頂戴しました。会場には日本ボストン会の会員以外にも、ボストンにゆかりのある方や、ボストン在住で日本に一時帰国中の方など、90名を超える方々が集まり、平和を作り、守っていく大切さを噛み締めました。

映画の後には、近くのレストランで懇親会を開催しました。現在ボストン日本総領事夫人も駆けつけて下さり、50人を超す参加者でボストンでの思い出や、これからの交流、そして活動に関する情報交換を行いました。ただ、お店がバリアフリーでなかったため、懇親参加希望者のうち2名が参加を断念せざるを得ない場面もあり、今後の課題が残りました。

動員数：映画祭92名（内、会員は24名。当日入会は2名）

懇親会51名

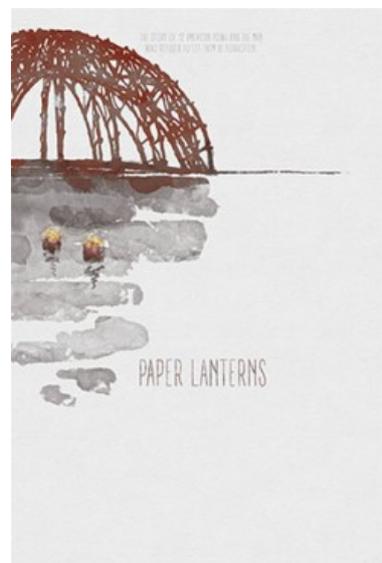
課題：今後、会場はバリアフリーであることが望ましい

### ハイキングと紅葉狩りの会 - 越後湯沢 紅葉・温泉・酒の旅 鶴 正登

2018年10月25日・26日の1泊2日で新潟県越後湯沢へ行きました。

参加者は16名。

1日目は昼過ぎに越後湯沢駅に集合。宿泊先のホテルで用意してくれたバスで大源太湖（だいげんたこ）へ。徒歩で湖を1時間弱で周遊。湖畔から見る大源太山（だいげんたさん・標高





大源田山をバックに大源田湖畔にて

1598m)はその山容から「東洋のmatterホルン」とも呼ばれているそうです。途中湖から流れ出る溪谷の景色も楽しみ、周遊後湖畔の山小屋風のレストラン、Taverna Vicini (タヴェルナ・ヴィチーニ)でコーヒータイム。「レストランなのにタベルナとはこれ如何に?」との某前会長の発言あり。スマホで検索すると、タベルナとはイタリア語で大衆食堂の意と分かりました。

その後ホテルの迎えのバスでホテルへ。古代檜で作られた浴槽に溢れる源泉のお湯に浸かるなど思い思いの時間を過ごしたのちにホテルの食堂で夕食、歓談。地元越後の食材を生かした料理を楽しみ、そして酒飲みにはこたえられない新潟の銘酒。特に幹事お薦めの鶴齢は大人気。食事後は有志がカラオケルームへ。各自好きな歌を早い者勝ちで歌う。誰かが指名してくれるのを待っていたら永遠に歌えません、このメンバーは。更に「あ、こりゃ!」とか「は、どした!」といった日本の伝統芸とでも言うべき合いの手が場を盛り上げます。実に楽しい。それに大きな声を出すのは健康にも良いとか。

翌朝は朝食後ホテルのバスで湯沢高原パノラマパークへ。ロープウェイで山麓駅から7分で山頂のパノラマステーションへ。その名の通り眼前には



湯沢高原パノラマパーク

八海山や巻機山など越後の山々が。徒歩約10分で高山植物園アルプの里へ。季節の終わりで高山植物の種類はそれ程多くはありませんでしたが、それでも大文字草の花などいくつかの植物を見ることが出来ました。また清冽な水を湛えたあやめヶ池を周遊する遊歩道を歩き、周囲や遠くの山々の紅葉を楽しみました。その後やまびこリフトで眺望の丘へ上り、再び越後の山々を見たあと徒歩で山頂駅へ戻り、ロープウェイで下山。

山麓駅で解散し、その後は前日から目をつけていた寿司屋へ行くグループ、地元でも人気の居酒屋で昼間から飲むグループ等に分かれました。

またお土産として前夜飲んだ鶴齢を買ったり、駒子餅を買ったり。

天候にも恵まれ楽しかった2日間の思い出を胸にそれぞれ帰路につきました。

## 音楽の会・第13回ホームコンサート 関直彦・尚子

紅葉の映える11月25日の午後、13回目のクラシック・ホームコンサートを関幹事宅で開催しました。今回は芦屋市在住のピアニスト木田陽子さんによる演奏。彼女は東京藝大卒業後、ボストンのロンジー音楽院、ニューイングランド音楽院で修士号、博士号を取得し、その後にアメリカを始め、世界各地で広く演奏活動を続け、現在は日本で活躍しているピアニストです。今回選ばれた曲目の半分はアメリカの作曲家による作品で、ニューイングランドの秋を思い起こさせる曲、ジャズの要素を取り入れた当会に相応しい曲などで、聴衆を大いに魅了し、楽しませる素晴らしい



木田陽子さん

演奏でした。総会の前日であったため危惧されたのですが、結局35名もの参加者を得て、大変好評の内に終わりました。演奏の後、恒例によりビュッフェ・スタイルによる懇親会で交流を深めました。

これを機に木田さん（木田は演奏名で、本名は宮野）は、ご主人の宮野元太郎さんと共に日本ボストン会に早速入会されました。当会のホームコンサートで演奏していただき、当会に加入した音楽家が演奏会を催す際にはeメールで案内を送りますので、そのようなボストンゆかりの音楽家に皆様のご支援をお願いします。

## ゴルフの会

### 伊藤 英徳

日本ボストン会の秋季ゴルフ懇親会は、11月29日（木）に紅葉残る川崎国際生田緑地ゴルフ場にて開催されました。晴天にも恵まれ、また11月末とは思えない温かい中、男性4名、女性3名計7名が集い和気あいあいと楽しいゴルフの一日を過ごせました。そして念願の優勝を勝ち取ることが出来て、更に楽しい一日となりました。

今回は川崎国際のゴルフ場はアップダウンがきついコースと感じ、年齢の重みを今更ながら感じました。

今回は男性チームと女性チームでのプレイで、シンペリアの隠しホールのラッキーにもメンバーにも恵まれ優勝の栄誉に恵まれました。ありがとうございました。

最後に楽しいゴルフ懇親会をして頂いた幹事の山崎さんのご苦勞に感謝、感謝です。



## 総会

### 土居 陽夫

第26会総会は2018年9月26日（月）に40名の参加を得てNEC三田ハウス芝クラブで開催されました。藤盛会長の開会の挨拶に続き第15代会長に就任した近藤新会長の挨拶、吉野初代会長の乾杯でスタートし、会計報告や事務局の報告に続き新たな試みであったプログラム委員会による映画会や各ワーキンググループの1年間の活動報告があり、新しい参加者からの挨拶等が行われました。



## 美術と歴史の会

### 鎌倉 紅葉・古我邸レストラン・一条恵観山荘を巡る 酒井 一郎

2018年11月30日に鎌倉を巡ってきました。

ここ10数年に亘って、鎌倉はシーズン、曜日に関係なく人出で混雑している。この秋にこの混雑を避け、日の短くなっている時期に多少とも古都鎌倉らしい、静寂な、緑と紅葉の中で、一日を過ごすべく訪れる先を選定してみました。

また訪問先は出来るだけ互いに近く固まっている方が、効率的と考えたり、特に食事はゆったりとして、見晴らしもよく何よりも美味しくなければならぬ。幸いかつての三菱財閥の専務理事をしていた荘清次郎の別荘として建てられた洋風館が、いま古我邸レストランとして蘇生している。

フランスのグルメの街で修業を終えたシェフがフランス料理を提供している。美味しさだけでなく見た目にも美しい。ただ食べ終わるのに2時間半もかかると言う。近くには鎌倉歴史文化交流館があり、食事前に、鎌倉の起源歴史を知るには好都合で、古代の生活出土品、武家当時の遺産などが展示されているので行ってみることにした。

この2か所で午後2時過ぎまで時間が取られ、4時30分頃にはJR鎌倉駅に戻りたいと考えていたので、午後からの2時間程度ではあと1~2箇所巡るのが精々。

前回の京都離宮巡りではないが、後陽成天皇の第九皇子一条恵観によって造営された建物と庭園（建物の中には時間の関係で入らず外からのみ見学）を散策する事にした。

こじんまりした庭園だが、大きな古木の紅葉が素晴らしかった。残った時間を利用して、一条恵観山荘の斜め向かえの浄妙寺・喜泉庵の庭を抹茶と菓子を楽しみながら枯山水庭園を静かに眺めた。

以上の場所と内容については、日本ボストン会のHP美術と歴史の会をクリックして頂き小野田勝洋氏が撮影した写真・編集を是非ご覧頂きたいと思います。内容説明と共に臨場感を味わって頂けます。

## 柴又七福神めぐり

### 中埜 岩男

1月5日晴れ。10時に京成高砂駅改札前に参加者12名（今脇さんご夫妻、小野田さん、生田さん、藤盛さんご夫妻、土居さんご夫妻、近藤さん、幸野さん、中埜二人）が集まりました。その



古我邸



一条恵観山荘

次は、徒歩組と電車組に分かれて新柴又駅傍の医王寺に行きました。電車組の電車待ちの都合で徒歩組から大幅に遅れて恵比寿様を参拝しました。ここからは、地図を頼りに、宝生院にて出世大黒天に参拝、万福寺にて中国由来の福祿寿に参拝、地元の人に親しまれている柴又帝釈天(題経寺)の本堂に祀られている毘沙門天に参拝、五智如来が出迎えてくれる眞勝院に祀られている弁財天に参拝、金町線沿いにある良観寺にて本堂に祀られている小さな宝袋尊に参拝し、境内の大きな石造りの宝袋尊に触れていた。これで柴又七福神をすべて参拝しました。



柴又七福神めぐりお疲れさま。天気に恵まれ、和気藹々の楽しいひと時を過ごすことができました。京成高砂駅から新柴又駅に行く電車が分からなかったり、柴又帝釈天の西門前で分断状態になったりなどのハプニングがありましたが、全員揃って七福神の参拝を済ませ、帝釈天参道入り口のゑびす屋にて美味しい重とお酒をいただきました。女性の皆さんが酒に強いのには吃驚しました。それで、ゑびす屋の勘定は割り勘になりました。

ゑびす屋を出てから直帰される組と矢切の渡し組に分かれました。矢切の櫓漕ぎの渡し舟を見物し、山本亭にて美味しいぜんざいをいただきました。

柴又駅前の寅さんとさくらの像に別れを告げて柴又を後にし、それぞれに家路に就きました。

## 油壺エデンの園見学と城ヶ島水仙ロードハイキング 中埜 岩男

平成31年1月29日(火) 10時前に京浜急行三崎口駅改札付近に参加者全員が集まった。

参加者は小野田さん(2名)、森さん、岩田さん(2名)、今脇さん(2名)、土居さん(2名)、島田さん、幸野さん、中埜(2名)の13名でした。

エデンの園からの送迎車2台がすでに到着していた。エデンの園の見学者対応の渡辺さんと星野さんの指示に従って2台に分乗したところで、園に向けて出発した。三崎駅からエデンの園まで、見晴らしのいい場所を巡りながらエデンの園の南口玄関に着いた。ここから、吉野先生ご夫妻が見学に付き添ってくださった。まず、8号棟のレストランにてエデンの園のガイドスを受けました。その後、2班に分かれて、園内見学が始まった。新館と旧館それぞれのモデルルームを見学した。旧館は天井の高さが少し低いようで、今脇さんが気にされていた。新館は間取りの影響か旧館と比べると狭く感じた。園内では、娯楽や趣味の場が充実し、食事にも配慮され、医療や介護が手厚いので、安心して生活できそうだ。12時過ぎになったので、昼食を摂る居住者の方々がレストランに集まって来られていた。再び、南口から送迎車に分乗し、三崎港の「うらり」まで送って頂いた。

「うらり」1階のさかな館では、おもいで券を使っておみやげと交換した。2階のやさい館の喫茶コーナーで一休みする人もいた。集合の時間となったので、さかな館の前で全員そろったことを確認し、まるつねまで歩いた。吉野先生ご夫妻はもう来られていた。テーブル席と座敷席に分かれて着席した。ビール・飲み物で乾杯。〇つね(まるつね)の特製まぐろ料理が一人分ずつ運ばれてきた。新鮮なまぐろ刺身とサザエの焼き物、ちらし寿司に吸い物でお腹一杯。美味かった。

満足満足！まぐろまんぷく券で支払い。食後、若女将にお願いして〇つねの玄関前で全員の記念写真を撮ってもらった。三崎港バス停に向かう途中で、エデンの園に戻られる吉野先生とお別れした。

城ヶ島行のバスに乗り、城ヶ島大橋を渡って、白秋歌碑前にて下車。ここから城ヶ島公園まで上り坂を歩いた。城ヶ島公園入口付近の植え込みの水仙が見事だったのでゆっくりと鑑賞しながら水仙ロード入り口まで歩いた。心配していた水仙は、今が盛りの花が多かった。好い香りが漂っていた。

いよいよ水仙ロードハイキングの始まり。土道の両脇に水仙が咲いていた。まず、海に突き出したウミウの群生地を展望した。小野田さんのカメラの望遠の威力は大したものだった。次に馬の背洞門の分岐点にて、大半の人が馬の背洞門の見学路を選択して、海の方に下って行った。老婆心ながら道中を心配したが、全員問題なく馬の背洞門を見学して帰ってきた。次の展望台から眼下に馬の背洞門を展望することができた。さらに進んで、みはらし広場にて休憩した。伊豆大島も見えていた。馬の背洞門の周囲の景色もここから展望できた。小さい洞門が2カ所あった。記念撮影をした。

さらに水仙ロードを進んだ。水仙も少しまばらになってきたがしっかり咲いていた。いよいよ城ヶ島灯台が見えてきた。ここで、海岸に沿う道と水仙ロードとに分かれていた。最初、水仙ロードに沿って歩いたが、三叉路になり、案内標識が紛らわしくなったので、一度分岐点に戻った。ここで海岸に沿って灯台を目指す組と水仙ロードで灯台を目指す組とに分かれた。水仙ロード組は、引き返し点から左に進んで商店街の通りにでて、灯台への案内板も見つけて灯台に登っていった。海岸組はやや遅れて到着した。夕日がきれいだったとか。灯台では2匹の猫が出向かえてくれた。灯台と夕日はいい景色を作っていた。通りまで降りて、土産物屋や食べ物屋を横目に見ながら、城ヶ島のバス停まで歩いた。



夕日と城ヶ島灯台

ここで三崎口行きバスを待った。10分ぐらいでバスがきた。このバスに全員乗って三崎口駅に向かった。途中の城ヶ島大橋の上から夕日に映える富士山が見られた。大満足。

三崎口駅に17時20分に着いた。17時24分発の快速特急に全員が乗った。ここで一応解散。横浜駅で大半の10名が下車・乗り換え、蒲田駅で2名が下車・乗り換え、品川駅で1名が下車・乗り換え。それぞれに家路に就いた。

今日は1日中天候に恵まれ、風も強くない快晴のハイキング日和でした。朝早くから夕方日没までの強行軍でしたが、一日楽しく過ごすことができました。参加の皆さんお疲れさまでした。

## ボストンだより - 4

### 八代 江津子

少し前になりますが、領事公邸にてパーティが行われご招待を受けました。ボストンで邦人をサポートする、JBラインという団体が政府の賞を頂いた祝賀会です。個人的にですが、私も毎年少しづつの寄付をさせて頂いています。この会がボストンにあること、そしてこの様に賞を頂いたことに感謝いたします。

ボストンには日本人を対象にした団体がいくつかあります。

ボストン日本人会、これは70年以上続く由緒ある団体で日本語学校を設立し、オーガナイズをしてきた歴史がありますが現在日本語学校は運営を独立させ、日本人会は新しい活動を模索しているように感じます。

ジャパンソサエティ、こちらはアメリカにある最古の日本を愛するアメリカ人を中心とする会で日本文化を紹介する活動を続けています。

日本企業懇話会、日本から一時的に企業派遣で滞在する企業人の会で主に企業同士の交流が行われています。年に一度、講演会が催されていますが、ゴルフなどで集い交流することが多いようです。

日本ボストン商業会、地元を中心とした中小企業の会。勉強会や交流会を軸に活動しています。日本祭りを主宰しているのもこの団体です。私はこの会の会長をさせて頂いております。

そして少し趣は異なりますが、JBライン。ボストン近郊の邦人の緊急時、個人のサポートをする団体です。何か困ったときにここに連絡すれば何かの糸口をくれる、という活動をしています。

「詐欺にあって全てを失いました。」と電話をすれば長い話を聞いてくれます。「家族が皆亡くなり一人で日本語も使う機会もない

のです」と電話をすれば日本語で優しく話をしてくれます。「一人暮らし、病をして入院、日本のご飯が少しでもいいから食べたい」と相談すればボランティアが交代で日本の食事を届けてくれます。ドメスティックなバイオレントで一人悩んでいた。相談して見たら、それが異常だったことに気がつく。などボストンの逃げ込み寺的な役割をこの会は担ってくれています。ボランティアを中心に運営されていますが、経済的にも苦しい会です。

日本の税制を鑑みると日本人に寄付という習慣が根付かないというのは仕方ない事かもしれませんが、この様な団体に寄付をする日本企業がないことに非常に残念な思いです。

アメリカでは、お金を出すきっかけを探している企業や個人を見ることが多くあります。私の所属しているナンタケットバスケットの社会は特殊な部分もありますが、バスケット美術館のサポートの為にオークションでは、元の金額以上の値段がつくことが多くあります。オークションで安く物を手に入れる、という私のような姑息は無く、この機会に少しでも多くの寄付をし、支えようというおらかな気持ちで寄付が行われます。寄付を税金対策として扱えるというアメリカの税制がそれを助けているというのも一点です。

ここ何年か、日本とアメリカを往復し仕事をしていると、私を含めこれからの日本人に少しでも「人のために」「社会の為に」と思う気持ちを社会の一員として持って貰いたいと感じます。日本政府にも是非税制の面で社会サポートをより容易にできる状況を作っていただきたい。また、日本企業が海外進出をして行く上で、イメージ戦略としてでは無い社会貢献ということにもう少し積極的に関わる必要があるのではないかと思う今日この頃です。

最後になりましたが、どうか日本祭りへのご寄付もよろしく申し上げます。



日本ボストン会事務局 

〒153-0064 東京都目黒区下目黒4-17-6

会報の原稿を募集します。内容はボストンやニューイングランドに関連のあるものとします。ご寄稿頂ける方は、掲載についてご相談をさせた頂きたい、事務局までご連絡ください。連絡先：